

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
107-113	高等学校	商業科	ビジネス・マネジメント	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
190 東法	商業 190-907	ビジネス・マネジメント 新訂版		

1. 編修の基本方針

・編修に際しては、教育基本法に定める「第一章 教育の目的及び理念」を参照し、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う教育を推進することを基本方針とした（教育基本法第二条）。さらに個別の項目については、学習指導要領及び学習指導要領解説を踏まえて編修し、用語や概念、理論は基礎的なものに限定して、事例や画像、図表を多く用いながら丁寧な説明を心がけた。また、グループワークや調べ学習を設けて、生徒が主体的かつ協働的に学習できるように配慮した。

・第1章では、企業の役割やマネジメントの定義、イノベーションの意義など、学習の全体にかかわる内容を扱い、基本的な知識を踏まえたうえでマネジメントについて学習できるように配慮した。また、具体的な企業の事例を適宜交えながら著述することで、生徒の理解が深まるよう工夫した。

・第2章では、組織形態の種類や経営戦略の策定に必要なフレームワーク、合併・買収の方法など、図解することで生徒の理解が進むよう工夫した。また、M&Aについては、重要な経営戦略の一つであり、日本でも増加傾向にあることをグラフを用いて示した。さらに、企業がM&Aに踏みきった理由について調査する課題を設けた。

・第3章では、経営資源の適切な管理と効果的な活用の重要性について理解させるために、最初に自動車メーカーの事例を示してから4つの経営資源のマネジメントについて著述した。また、企業がビジネスをおこなうにあたって、メンタルヘルス対策に取り組んだり、従業員のモチベーション（モチベーション）を高めたりすることが重要であることを著述した。

・第4章では、コーポレート・ガバナンス（企業統治）の重要性について理解を深められるように、具体的な企業の事例を調査する課題を設けた。また、持続可能な社会の実現に向けて企業に求められる役割や取り組みについて、具体的な事例を示しながら著述した。

・第5章では、ソーシャルビジネスについて事例とともに掲載し、ビジネスが社会的課題の解決において重要な役割を果たしていることを生徒が理解できるように工夫した。また、それまでの学習を踏まえてビジネスプランを考案する課題を設け、企業活動が社会に与える影響を考慮しながら、経営資源を有効に活用してビジネスを展開する重要性を理解できるように促した。

2. 対照表		
図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
口絵①～⑩	<ul style="list-style-type: none"> ・コーポレート・ガバナンス（企業統治）についての理解を深められるよう、強化が図られるようになった背景から現在までの流れを簡潔にまとめた（第二号）。 ・身近な清涼飲料メーカーを例に挙げ、M&A について生徒の理解が深まるよう工夫した（第一号）。 ・生産方式について、実際の写真を掲載することで生徒が具体的にイメージしながら理解できるよう工夫した（第一号）。 ・情報通信技術（ICT）の発展によって、経済社会にどのような変化をもたらされているのかをわかりやすく示すために、写真やイラストとともに図にまとめた（第三号）。 ・イノベーションについての理解が深まるよう、日本と海外のイノベーターを紹介し、これまでにどのようなイノベーションが実現されてきたのかを示した（第五号）。 ・現在わが国でおこなわれているソーシャルビジネスの事例を写真とともに掲載し、どのような社会的課題の解決に向けて企業が取り組みを進めているのかを示した（第四号号・第五号）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・口絵① ・口絵② ・口絵③ ・口絵④ ・口絵⑤～⑥ ・口絵⑨～⑩
第1章 ビジネスと マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・企業が経済社会で果たす役割や、ビジネスを展開するうえでステークホルダーとの関係を重視しなければならないことを著述した（第二号）。 ・ビジネスとマネジメントの関係について理解しやすいよう、寿司店を事例に取り上げて著述した（第一号）。 ・イノベーションによってどのような価値が社会にもたらされてきたのかを、スマートフォンや宅配サービスなど身近な事例をもとに著述した（第三号）。 ・渋沢栄一、五代友厚、岩崎彌太郎の理念について取りあげて、創業者や経営者の理念が企業やビジネスの発展にどのように関係しているのかを著述した（第三号・第五号） ・グローバル化が進展していることについて、日本の経済連携協定の現状を図示した（第五号）。 ・企業が情報通信技術（ICT）を活用して生産性向上などを図っている例として、IoT を活用したオフィス環境の整備についての事例を掲載した（第二号）。 ・ダイバーシティ・マネジメントについて著述し、多様な人材を活用する動きが進んでいるとともに、そのためのマネジメントが重要になることを示した（第三号）。 ・第1章で学んだ知識の理解度を確認する問題や、老舗企業について調査し、考察する課題を掲載した（第一号）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3頁8～19行目 ・5頁コラム ・6～7頁 ・13～15頁 ・17頁図 ・20頁コラム ・21頁11～25行目 ・22頁
第2章 組織のマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・経営理念の意義や、企業全体で共有することの重要性について、災害時における対応が注目された企業の事例を取り上げて著述した（第二号・第三号）。 ・鉄道会社とコンビニエンスストアという身近な事例を取 	<ul style="list-style-type: none"> ・33頁コラム ・41頁コラム

	<p>り上げることで、業務提携についての理解が深まるよう工夫した（第一号）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章のみでは理解しづらい合併と買収の方法について、図や事例を交えて著述した（第一号）。 ・第2章で学んだ知識の理解度を確認する問題や、コーポレート・アイデンティティ（CI）について調査し、考察する課題を掲載した（第一号）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・44～47 頁 ・48 頁
<p>第3章 経営資源の マネジメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人的資源のマネジメントにおいて、企業はワーク・ライフ・バランスに配慮する必要があることを著述した（第三号）。 ・正規雇用労働者と非正規雇用労働者の待遇格差の問題について扱い、同一労働同一賃金の実現に向けた取り組みが必要であることを著述した（第三号）。 ・年功序列から成果主義を導入する企業が増えつつあることを著述する一方で、その問題点についても示し、どちらの制度が良い・悪いという視点に陥らないよう配慮した。さらに、それぞれのメリットとデメリットを考えさせる課題を掲載し、生徒が理解を深められるよう工夫した（第二号）。 ・企業の社会的責任の一つとしてメンタルヘルス対策が重視されていることを著述するとともに、企業の事例を掲載することで、生徒が理解を深められるよう工夫した（第二号・第三号） ・集団の行動様式によって生み出されたアイデア商品を取り上げて画像とともに掲載し、集団の行動様式の意義について著述した（第三号）。 ・物流センターの意義や役割について生徒が具体的にイメージしながら理解できるよう、企業の事例を画像とともに掲載した（第一号）。 ・企業にとって、ステークホルダーからの信用が非常に重要であり、そのために誠実な行動を心がけることなどが大切であることを、事例を取り上げながら著述した（第三号）。 ・企業が自社の技術をあえて公開し、地球環境問題の解決に貢献している事例を著述した（第四号）。 ・第3章で学んだ知識の理解度を確認する問題や、企業の福利厚生について調査し、グループで話し合う課題を掲載した（第一号）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・52 頁 6～9 行目 ・54 頁 14 行目～55 頁 3 行目 ・56 頁 17 行目～57 頁 ・61 頁 3～8 行目、61 頁コラム ・62 頁 8～10 行目 ・75 頁コラム ・89 頁 ・91 頁コラム ・94 頁
<p>第4章 企業の秩序と責任</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーン調達や ISO14001 の取得など、持続可能な社会の実現に向けた企業の取り組みについて著述した（第四号）。 ・エシカル消費について、画像とともに企業の事例について著述した（第四号）。 ・IR について実際の様子がわかる画像とともに取り上げ、企業が説明責任（アカウンタビリティ）を果たすことの重要性を示した（第三号）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・108 頁 ・109 頁コラム ・111 頁コラム

	<ul style="list-style-type: none"> ・第4章で学んだ知識の理解度を確認する問題や、CSR 活動について調査し、グループで話し合う課題を掲載した (第一号)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・112 頁
第5章 ビジネスの創造と 展開	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的課題の解決に向けた取り組みとして、ソーシャルビジネスがおこなわれていることを事例とともに掲載した (第三号・第四号)。 ・ソーシャルビジネスによる地域活性化を目指し、地域の資源などを活用する地域産業の振興が注目されていることを取り上げ、事例とともに著述した (第五号)。 ・第5章で学んだ内容をもとに、ビジネスプランを考案して事業計画を作成する課題を掲載した (第一号)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・114 頁 ・115 頁 ・130 頁

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・口絵は学習者の興味を引き出すとともに、本文の補足的な内容になるよう配慮し、「実務に即して体系的・系統的に理解」できるようにした。
- ・高校生のキャラクター「ナビト」がビジネスを学ぶストーリーを各節のはじめに掲載し、生徒がマネジメントを身近なものとして感じながら学習を進められるよう工夫した。
- ・各章末課題には選択式の問題だけでなく、記述式の問題や事例を調査し、考察する課題を設けることで、生徒が自分の考えをまとめ、表現する力を身に付けられるよう配慮した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
107-113	高等学校	商業科	ビジネス・マネジメント	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
190 東法	商業 190-907	ビジネス・マネジメント 新訂版		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

- ・ビジネスにおけるマネジメントに必要な基礎的な知識を習得させるために、丁寧な記述と、豊富な写真・図版を掲載し、初学者でも無理なくマネジメントについて学ぶことができる教科書とした。
- ・ビジネスにおけるマネジメントについて実務に即して理解させるために、適切な具体事例を選定して取りあげた。
- ・ビジネスにおけるマネジメントに関する課題を発見し、解決する力を養うために、統計資料を掲載するとともに、小問（「やってみよう」）と章末課題を設けた。
- ・ビジネスにおけるマネジメントに主体的かつ協働的に取り組む態度を養うために、適宜自分の意見をまとめて話し合うグループワークを設けた。
- ・重要用語については太字表記を用い、また関連する内容などを適宜側注に著述したほか、参照ページを示すことで学習しやすいように配慮した。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
第1章 ビジネスとマネジメント			
第1節 マネジメントの役割	(1) ビジネスとマネジメント ア マネジメントの役割	2-5 頁	2
①ビジネスの担い手としての企業			
②ビジネスの拡大と株式			
③企業の役割とステークホルダー（利害関係者）			
④企業の発展とマネジメントの役割			
第2節 イノベーションの重要性	(1) ビジネスとマネジメント イ イノベーションの重要性	6-11 頁	3
①新たな利益をもたらすイノベーション			
②新しいビジネスモデルによる市場の開拓			

③経営組織の形成			
④イノベーションのジレンマ			
第3節 創業者や経営者の理念	(1) ビジネスとマネジメント ウ 創業者や経営者の理念	12-15 頁	2
①ビジネスの成功とは何か			
②100年以上続く老舗企業			
③創業者や経営者の理念と企業の発展			
第4節 ビジネスにおける外部環境の影響	(1) ビジネスとマネジメント エ 外部環境の影響	16-21 頁	3
①経済のグローバル化の進展			
②規制緩和の動向			
③情報通信技術 (ICT) の発展			
④少子高齢化の進行			
第1章 章末課題		22 頁	—
第2章 組織のマネジメント			
第1節 組織の形態	(2) 組織のマネジメント ア 組織の形態	24-31 頁	4
①組織の3つの要素			
②分業と組織の分化			
③組織の基本形態			
④組織と人のマネジメント			
⑤組織の適切な管理と活性化			
第2節 経営理念と経営戦略	(2) 組織のマネジメント イ 経営理念と経営戦略	32-39 頁	5
①経営理念			
②コーポレート・アイデンティティ (CI)			
③経営戦略			
④経営戦略と経営資源の配分			
⑤市場環境の分析			
⑥経営戦略とマネジメント			
第3節 企業間連携と事業構造の再構築	(2) 組織のマネジメント ウ 企業間連携と事業構造の再構築	40-47 頁	6
①戦略としての企業間連携と M&A			
②企業間連携			
③M&A			
④持株会社制による事業再編			
第2章 章末課題		48 頁	—
第3章 経営資源のマネジメント			
第1節 経営資源の種類と最適化	(3) 経営資源のマネジメント ア 経営資源の種類と最適化	50-51 頁	1
①経営資源の種類			
②経営資源の最適化			
第2節 人的資源のマネジメント	(3) 経営資源のマネジメント イ 人的資源のマネジメント	52-67 頁	8
①人事管理と労務管理			
②採用			
③雇用			
④配置・昇進・昇格			
⑤賃金のマネジメント			
⑥企業内教育と能力開発のマネジメント			

⑦労働環境のマネジメント			
⑧労使関係管理			
⑨人間関係管理—集団の行動様式			
⑩人間関係管理—リーダーシップ			
⑪人間関係管理—マネジメントの諸理論			
⑫人間関係管理—人材活用の諸方法			
第3節 物的資源のマネジメント	(3) 経営資源のマネジメント ウ 物的資源のマネジメント	68-75 頁	4
①効率的な生産方式			
②生産現場の分析			
③生産の三条件			
④生産の流れ			
⑤調達ルート管理			
⑥在庫管理			
⑦販売ルート管理			
⑧施設・設備管理			
第4節 財務的資源のマネジメント	(3) 経営資源のマネジメント エ 財務的資源の マネジメント	76-85 頁	4
①財務管理の考え方			
②財務会計の目的			
③管理会計の目的			
④予算管理			
⑤資金調達の方法			
⑥資金調達の動向			
⑦情報通信技術 (ICT) と金融			
⑧さまざまな金融商品			
⑨金融商品の利点とリスク			
⑩財務分析とマネジメント			
第5節 情動的資源のマネジメント	(3) 経営資源のマネジメント オ 情動的資源の マネジメント	86-93 頁	4
①情動的資源とは			
②顧客情報の活用と管理			
③信用の維持と向上			
④知的財産の管理			
⑤ブランドの維持と管理			
⑥情動的資源の管理			
第3章 章末課題		94 頁	—
第4章 企業の秩序と責任			
第1節 コーポレート・ガバナンス (企業統治)	(4) 企業の秩序と責任 ア 企業統治	96-99 頁	3
①コーポレート・ガバナンス (企業統治) の重要性			
②ディスクロージャー (情報開示)			
③内部統制システム			
第2節 リスク・マネジメント	(4) 企業の秩序と責任 イ リスク・マネジメント	100-107 頁	6
①リスク・マネジメントの重要性			
②リスクの種類			
③リスク・マネジメントのプロセス			

④リスク・マネジメントに取り組むための体制			
⑤BCP（事業継続計画）			
⑥保険			
第3節 企業の社会的責任	(4) 企業の秩序と責任	108-111 頁	2
①持続可能な社会	ウ 企業の社会的責任		
②CSV（共通価値の創造）			
③企業の社会的責任（CSR）			
第4章 章末課題		112 頁	—
第5章 ビジネスの創造と展開			
第1節 ビジネスの創造の意義と課題	(5) ビジネスの創造と展開	114-119 頁	4
①ソーシャルビジネス	ア ビジネスの創造の意義と課題		
②ソーシャルビジネスによる地域活性化			
③新たなビジネスモデルの構築			
第2節 プロジェクト管理	(5) ビジネスの創造と展開	120-123 頁	5
①プロジェクト管理とは	イ プロジェクト管理		
②プロジェクト管理の流れ			
③プロジェクトの事後評価			
第3節 起業の意義と手続き	(5) ビジネスの創造と展開	124-129 頁	4
①企業家精神の重要性	ウ 起業の意義と手続		
②起業の支援体制			
③事業計画書の作成			
④株式会社設立の手続きの概要			
第5章 章末問題		130 頁	—
		計	70